
ワークショップ「き」組 ニュース

第3号 2022年7月20日 発行

<https://kigumi.jp/>

● ごあいさつ

各地で気温の上昇や豪雨など、異常気象が続きます。みなさまお変わりございませんでしょうか？コロナ禍も少し落ち着きを見せたと思ったら第7波に突入してしまいました。一体いつまで続くのか？気持ちが晴れない日が続きます。ワークショップ「き」組の「木組ゼミ」は4回目の美術講座は「開口部から考える外観のデザイン」です。「理論講座」は北海道の建設会社と設計事務所の話です。また、ワークショップ「き」組の広告案を掲載します。広告は、「住む。」の秋号（9月21日発売）に載る予定です。少し先の話ですが、代表の松井が「濱田庄司記念益子参考館」で行われる連続講演会の講師を依頼されました。講演と一緒に館内の長屋門の「実測演習」を行います。建築関係の方も一般の方も参加できます。日程は2023年3月18日と19日を予定しております。敬愛する「柳宗悦と濱田庄司」の民芸活動の一端に触れられることを、大変嬉しく思います。詳しくは追ってお知らせいたします。

／代表理事 松井 郁夫 <https://matsui-ikuo.jp/>

● 「美術講座④」報告

「架構から考える開口部」について（松井）

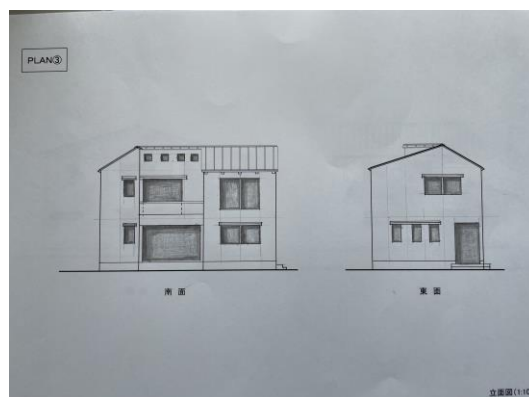
・開口部とは、外に開く窓や室内の出入り口のことを言います。建築の場合外観や間取りを美しくつくる上で、とても大切な部位です。

特に木造住宅の場合、開口部は柱と柱の間にしか開けることのできない場所なので、建築用語的には「柱間装置」といいます。そもそも木造建築は、柱や梁などの軸状の材木でできているので、木造住宅のことを建築用語では「木造軸組工法」と定義しています。

課題用紙5事例全てに柱の位置を書き込んでおいたのは、そのためです。

さらに開口部以外の壁で耐力をもたせるとすれば、耐力壁の配置も窓を開ける際の重要な決め手になります。開口部以外の壁の耐力を上げることで大きな窓は開けられますが、そのために引き抜き力が大きくなり、強いホールダウン金物がでてしまうのは本末転倒です。特に建物の四隅の角には気をつけましょう。最も引き抜き力の出やすい場所です。

今回は「パースの描き方」についてお話しします。いろいろな建築家のパースからプレゼンテーションの技術を学びます。



●「理論講座④」報告

今回の講師は、北海道で「古民家再生」を実践している武部建設の武部豊樹さんと設計事務所アトリエMOMOの櫻井百子さんでした。武部さんは北海道の建設界では重鎮で、道内ばかりでなく国の委員会にも参加されています。最近では、職人育成に力を入れており、毎年若い大工を社員として入社してもらい、手刻みを教えています。武部建設とアトリエMOMOで協働した「南幌町きた住まいるヴィレッジ」は木造住宅の分譲地です。「てまひまぐらし」というコンセプトロゴが素敵です。是非HPを御覧ください。

武部建設 <https://www.tkb2000.co.jp/> アトリエ MOMO <https://ateliermomo-arc.com/>
今回は「理論講座のまとめ」として、これまでも講師の方々の鼎談を企画しています。Zoom 講座ですので、みなさんお気軽にお申し込みください

●住宅医コラム「古民家再生」実験に学ぶ 転送

建築家三澤文子さん主催の「住宅医協会」のメルマガに「リレーコラム」を書きました。「建築病理学」に基づく改修の仕組みに賛同し「住宅医協会」の理事も務めています。

コラムでは、2007年から2011年まで実施された国土交通省による、検討委員会に参加しました「伝統構法の設計法作成および性能実験検証」の実大実験の結果について、これまでの古民家の保護制度の歴史を踏まえて「古民家の定義」や床下の重要性を書かせていただきました。古民家の床下に「伝統構法の真実」があります。「古民家再生」をブームで終わらせないには、今回の実大実験で得た知見を生かすべきです。古民家の興味のある方は必読です！

<https://sapi.or.jp/column220710/>



実験によって通し柱が折れて傾いた土壁の「伝統構法の建物」

● 広告始めます

ワークショップ「き」組の広告を、生活全般の総合誌「住む。」という雑誌に掲載します。会員メンバーの仕事につながってくれれば良いと願います。

山
日本の山で育った木が素材です。材木の費用を山に還元して、植林に生かすこと、山を守ります。

住まい手

設計者
日本の気候風土に合った構造・工法を踏まえ、温熱環境にも配慮した住まいを設計します。

職人
伝統の技を持つ職人が、日本の木の特性を生かした工法で、粘り強く、再生可能な家を組み上げます。

私たちの家づくりのかたちです。

ワークショップ「き」組
松井部夫建築設計事務所
天竜S・ドライブシステム協同組合
キューブワン・ハウジング
中村建設
田中製材工業
石川設計
藤屋工務店
タカキ住宅建設
藤田工務店
松下生活研究所L.C.
本村建設
田中大造建築設計事務所
カジワラホーム

ワークショップ「き」組
〒165-0023 東京都千代田区千代田1-46-12-102 松井部夫建築設計事務所内 Tel: 03-3951-0703 Fax: 03-5996-1370 お問い合わせ info@kigumi.jp <http://kigumi.jp/>

●講演会の知らせ

「濱田庄司記念益子参考館」でリレー講座が始まります。

民芸の創立メンバーである陶芸家の濱田庄司記念館は益子にある敷地に近在の建物を移築して公開されていますが、最近茅葺の屋根の痛みが激しくて長屋門の茅を葺き替えることになりました。茅はとても費用のかかる屋根材ですが、クラウドファンディングによって資金が賄えたそうです。茅葺き職人も確保できて今回の講座は、「クラウドファンディング達成お礼企画」です。



●編集後記

三回目のメルマガですが、いかがでしたでしょうか？

「美術講座」では、絵を描くことによって美しさを習得します。「理論講座」では第一線で活躍する講師の方々に「こだわりの家づくり」について語っていただきます。さらに「木組講座」では、大工用語の理解できる設計者の育成を目指しています。「温熱講座」と「古民家講座」も人気があります。

スキルアップを考えている実務者のみなさんのご参加をお待ちします。

お申し込みはこちらから <https://kigumi.jp/seminars>

不定期の発行となります。よろしくお願ひ致します。（松井郁夫）

本メールは、ワークショップ「き」組のメンバーや「木組のデザインゼミナール」受講生、お取引のあるお客様等名刺交換させていただいた方々にお送りしています。アドレスの変更や配信停止ご希望の方はお手数ですが返信ください。

一般社団法人 ワークショップ「き」組 事務局

〒165-0023 東京都中野区江原町 1-46-12-102

(TEL) 03-3951-0703 (FAX) 03-5996-1370 (E-mail) info@kigumi.jp